

高知大学における短期教員研修留学 の事例紹介

高知大学教育学部准教授 是永 かな子

KORENAGA Kanako

キーワード： 教員研修留学、地域貢献、大学間交流

1、はじめに

2006年4月から高知大学とスウェーデン・イエーテボリ大学は全学協定を締結し、2011年にはイエーテボリ大学の研究協力校であったパティレ市立オイレショー特別学校と高知大学教育学部附属特別支援学校が部局間協定を締結した。高知大学は教育学部、人文学部、理学部、農学部、医学部によって構成される大学であり、イエーテボリ大学は教育学部、人文学部、理工学部、医学部、経済学部、社会学部、芸術学部、情報学部によって構成される大学である。高知大学教育学部附属特別支援学校は知的障害児を対象とした学校であり、パティレ市立オイレショー特別学校は通常学校に併設する知的障害児を対象とした学校である。

全学協定および部局間協定を有効に活用するため、2006年度から様々な交流事業に着手した。その中で今回は短期教員研修留学について紹介する。

2、短期教員研修留学の対象

「短期教員研修留学」の対象は高知大学教員、高知大学教育学部附属校園教員・高知県内学校教職員（以下、現職教員とする）、高知大学大学院生、高知大学学生である。大学院生・学生は教員予備群として教職志望学生を想定している。「短期」教員研修留学に力を入れる背景は、高知大学側もイエーテボリ大学・オイレショー特別学校側も、研究者・現職教員・大学院生・学生問わず、長期滞在・留学は困難であるが、1週間から2週間程度の短期滞在・研修は可能であり、そのような研修留学のニーズが高かったためである。

またとくに現職教員は教育実践を日々担っていることなどの事情から海外研修自体が容易ではない。そのため2007年度の短期教員研修留学に参加する教員の選定については、高知県教育委員会を通じて高知県下の全教職員に呼びかけ、教育委員会経由での派遣教員を2名選考した。教育関係施設視察と関係者間の討議を包括した研修プログラムを確立することで、高知大学が地域において新たな研修機会を提供できるなど、地域貢献に寄与できると考えたのである。よってこれは大学の地域貢献の一環でもある。

3、短期教員研修留学の内容

短期教員研修留学に着手した当初は派遣による視察が中心であった。

視察先はイエーテボリ大学・オイレシヨール特別学校のみならず、学童保育、就労支援施設、パティレ市立オイレシヨール特別学校の子どもの実習先(喫茶店等)、国立特別教育研究所、他、多様な場所を設定した。

短期教員研修留学は、以下のような内容で構成されている。

第一に、事前学習としてスウェーデン文化・社会や簡単なスウェーデン語、訪問先の予備知識に関して大学教員等が教示する。

第二に、一週間から二週間の期間で、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校・大学等、参加者の興味関心に沿った研修先を訪問して、教育の実際を視察する。

第三に、イエーテボリ大学やオイレシヨール特別学校において、関係者と協議する時間を設定する。

第四に、帰国後、事後学習として研修成果を大学教員とともにまとめる。

第五に、一連の教育研究活動を大学教員が総括し、学会発表や報告書もしくは論文等で公表する。

また、高知大学教育学部附属特別支援学校とパティレ市立オイレシヨール特別学校間の交流は、「自閉症に関する実践」等の教員同士による交流のみならず、それぞれの学校に在籍する子ども同士のビデオレターによる交流へと展開している。

そして、2008年度からは短期教員研修留学と連動させて、高知大学学生による国際教育実習を行っている。その際には大学教員と研修に参加する現職教員は、学生によるパティレ市立オイレシヨール特別学校での授業および事前・事後指導に参加する。

4、 国際教育実習の内容

国際教育実習は、すでに附属特別支援学校において実習を行った教職志望学生が、その経験も踏まえてオイレシヨール特別学校で「日本文化」に関する1コマの授業を英語で行うものである。言語の壁があるものの、視覚化や体験の共有などに主軸をおいて構成している。

国際教育実習の内容は以下の四段階である。

第一に、教職志望学生が大学教員と現職教員による事前指導を受け、授業案を作成する。

第二に、教職志望学生と大学教員、現職教員がオイレシヨール特別学校を訪問する。その際に、教職志望学生が「日本文化」に関する授業を知的障害児に対して英語で行う。

第三に、教職志望学生と大学教員、現職教員及びオイレシヨール特別学校教員が学生の授業に関する研究協議を行う。

第四に、高知大学において、教職志望学生と大学教員、現職教員による事後指導・実習成果公表の場を設定する。

5、 短期教員研修留学の実際

2008年度¹、2009年度²、2010年度³の実際はすでに公表しているため、2011年度、2012年度の短期教員研修留学事前学習、研修日程、事後指導の内容を示す。

表1 2011年度短期教員研修留学事前学習

日付	主たる活動
2月16日(火)および2月22日(月)	1、自己紹介・研修テーマの紹介(事前購読文献や資料の確認等) 2、日程・研修内容の確認(旅程、宿泊先、連絡先、研修内容の確認等) 3、一般的な確認事項および質疑応答(現地での服装、役割分担の協議等) 4、北欧の教育制度などについての学習 5、スウェーデン人留学生による簡単なスウェーデン語の学習

2011年度の短期教員研修留学参加者は学生5人、大学教員4人、教育学部附属特別支援学校教員1人、公立小学校教員1人であった。研修参加者はそれぞれ研修テーマを設定し、自分のテーマにかかわる質問事項を10程度英作文して、現地で各自インタビューを行うことを課題としている。そのため基礎的購読文献の提示、基礎的内容の学習、高知大学に留学しているスウェーデン人留学生による挨拶などのスウェーデン語の学習の場を設定している。

表2 2011年度短期教員研修留学日程

日付	都市名	主たる活動
3月6日(火)	高知→大阪→ヘルシンキ→コペンハーゲン	移動
3月7日(水)	コペンハーゲン	学校見学：通常学校 Kildevaeldsskolen
3月8日(木)	コペンハーゲン	学校見学：障害児学校 Engskolen
3月9日(金)	コペンハーゲン	学校見学：視覚障害センター Blindeinstituttet i Hellerup
3月10日(土)	コペンハーゲン	自由
3月11日(日)	コペンハーゲン→イエーテボリ	移動
3月12日(月)	イエーテボリ	学校見学：パティレ市立オイレショー特別学校 国際教育実習：パティレ市立オイレショー特別学校
3月13日(火)	イエーテボリ	学校見学：パティレ市立オイレショー特別学校 イエーテボリ大学訪問(ギルバーグ神経精神医学センター等)
3月14日(水)	イエーテボリ	学校見学：パティレ市立オイレショー特別学校
3月15日(木)	イエーテボリ→ヘルシンキ→大阪	移動

3月16日(金)	大阪→高知	
3月17日(土)		移動

2011年度の研修では、パティレ市立オイレシヨール特別学校のみならずデンマーク・コペンハーゲンの通常学校と障害児学校、視覚障害センターも視察した。



写真1 国際教育実習の様子



写真2 授業見学の様子

表3 2011年度短期教員研修留学事後学習

日付	主たる活動
3月29日(木)	研修に関するレポート提出及び協議、国際教育実習に関する検討

研修参加者は各自の研修テーマおよび質問項目に従って、研修で学んだことに関するレポートを作成する。事後指導時にレポートをもとに研修で見聞したことについて協議する。

次に2012年度の短期教員研修留学の概要である。

表4 2012年度短期教員研修留学事前学習

日付	主たる活動
2月21日(木)および2月22日(金)	1、自己紹介・研修テーマの紹介(必要文献や資料の確認等) 2、日程・研修内容の確認(旅程、宿泊先、連絡先、研修内容の確認等) 3、一般的な確認事項および質疑応答(服装、役割分担の協議等) 4、北欧の教育制度などについての学習 5、国際教育実習模擬授業

短期教員研修留学参加者は学生5人、大学教員2人、教育学部附属特別支援学校教員1人であった。事前指導で研修参加者は各自の研修テーマと質問事項を確認した。また、2012年度の事前指導では国際教育実習の模擬授業を行い、言葉での教示が困難な状況でのわかりやすい授業や視覚支援の必要性について大学教員、附属特別支援学校教員、大学生で協議した。

表5 2011年度短期教員研修留学日程

日付		主な事項
3月2日(土)	高知→東京	移動
3月3日(日)	東京→コペンハーゲン→イエーテボリ	移動
3月4日(月)	イエーテボリ	学校見学：パティレ市立オイレショー特別学校 国際教育実習：パティレ市立オイレショー特別学校 イエーテボリ大学・高知大学留学生同窓会
3月5日(火)	イエーテボリ	学校見学：パティレ市立オイレショー特別学校 イエーテボリ大学訪問(看護学部、人文学部、ギルバーグ神経精神医学センター、事務局国際課等)
3月6日(水)	イエーテボリ→コペンハーゲン→レイキャビック	移動
3月7日(木)	レイキャビック	北欧教育学会参加
3月8日(金)	レイキャビック	自由
3月9日(土)	レイキャビック	自由
3月10日(日)	レイキャビック→コペンハーゲン	移動
3月11日(月)	コペンハーゲン	学校見学：通常学校 Søholmsskolen
3月12日(火)	コペンハーゲン	学校見学：通常学校 Virum skole、通常学校 Fuglsanggårdskolen、青年期学校 LTU(Youth school, 10th grade)
3月13日(水)	コペンハーゲン→東京	移動
3月14日(木)	東京→高知	移動

2012年度の研修では、イエーテボリ大学とパティレ市立オイレショー特別学校訪問、イエーテボリ大学・高知大学留学生同窓会の実施の他、アイスランドのレイキャビックで開催された北欧教育学会に参加した。そしてデンマーク・コペンハーゲン近郊の地方自治体での学校見学を実施した。



写真3 イェーテボリ大学・高知大学留学生同窓会



写真4 イェーテボリ大学教育学部での交流会

表6 2012年度短期教員研修留学事後学習

日付	主たる活動
3月22日(金)	研修に関するレポート提出及び協議、国際教育実習に関する検討

パティレ市立オイレショー特別学校の見学ではそれぞれの興味関心に従って、1-2人ずつで授業を見学する。そのため各自の学びを共有する場、現地で十分に理解できなかった事項について相互に協議することによって理解を深める場が必要である。また国際教育実習も定着しつつあるため、次年度の実施において参考となるであろうことをまとめておくことが重要になる。

以上のように、海外研修を個人の思い出とするのではなく、研修に参加した教員の力量向上につなげるためには、事前・事後指導が鍵となる。

6、 短期教員研修留学の成果

以下に短期教員研修留学の成果について考察する。

派遣される教員・教職を志望する大学院生・学生にとっては、第一に、視察先では少人数での授業参観を行ったり自ら英語で質問したりするなど、積極的に交流・学習を行う場が設定されている。そのため、短期教員研修留学は国際性を身につける好機となる。国際性を身につけることは、異文化理解を意図しており、これらは教員に必要な幅広い教養を意味する。派遣のみならず受入も増えているが、受入の際には派遣された教員が積極的に受入担当になっている。

第二に、日本とは異なる教育形態を学ぶことについては、現職教員の研究的力量の向上および実践的力量的向上につながる。大学や特別学校の協力を得て、最新の研究・実践に関する知見に触れることができ、教員の教育実践力を高めることが期待できる。

第三に、異文化や言葉によるコミュニケーションが容易ではない状況で生活することで、教員は知的障害や自閉症のある子どもの気持ちを想像できるという意見もある。子どもにとってどのような環境が「わかりやすい」のかを体験できるのである。

また交流に関しては、教員同士の交流から子ども同士の交流にも展開している。附属特別支援学校の子どもはヨーロッパを、パティレ市立オイレショー特別学校の子どもはアジアを意識する機会になり、教育実践に異文化理解を導入することにもつながっている。

国際教育実習に関しては、事前事後における大学教員と現職教員による学生の協働指導に展開している。スウェーデンでの授業では、パティレ市立オイレショー特別学校の教員もともに授業を参観して、学生に対してコメントしている。

7、 短期教員研修留学の課題

今後の課題としては以下がある。研修に関しては、個人的に学ぶだけではなく、日本や高知県の教育に還元できるような機会の設定が望ましいであろう。交流に関しては、派遣のみならず受入を意識して相互の行き来を行うこと、教員同士のみならず、子ども同士、学生同士の交流内容を充実させることが期待される。国際教育実習に関しては、より良い授業の追求、内容の深化が常に問われるであろう。教員と子ども、学生にとって有益な異文化理解、教材・授業研究における協働が継続的に行われることが期待される。

8、 おわりに

高知大学とイエーテボリ大学の協定は、高知大学教育学部附属特別支援学校とパティレ市立オイレショー特別学校との協定締結へと展開した。短期教員研修留学の内容も学校の視察のみならず、福祉・就労施設の見学など視察対象となる分野拡大、さらに、地域としてもデンマークでの視察へと展開した。今後は学生による国際教育実習におけるスーパーバイズの役割も短期教員研修留学に包括して、いっそう展開されよう。また2011年11月18日には高知県とイエーテボリ大学ギルバーク神経精神医学センターとの協定も調印された。今後は高知県全体を視野に広範囲での交流が進展することが期待される。



写真5 イェーテボリ大学ギルバーク神経精神医学センター協定調印式



写真6 ビデオレターでの交流

参考文献

- ¹ 是永かな子(2009)大学間国際交流協定に基づく短期教員研修留学プログラムの確立(その1)－高知大学とスウェーデン・イエーテボリ大学間の国際交流促進及び大学の地域貢献を目的として－『高知大学総合教育センター修学・留学生支援部門紀要』第3号, pp. 93 - 101.
- ² 是永かな子(2010)大学間国際交流協定に基づく短期教員研修留学プログラムの確立(その2)－高知大学とスウェーデン・イエーテボリ大学間の国際交流促進及び大学の地域貢献を目的として－『高知大学総合教育センター修学・留学生支援部門紀要』第4号, pp. 79-95.
- ³ 是永かな子(2011)大学間国際交流協定に基づく短期教員研修留学プログラムの確立(そ

の3) ー高知大学附属特別支援学校教員による国際交流と学生による国際教育実習の試行ー『高知大学総合教育センター修学・留学生支援部門紀要』第5号, 105-117.